

90周年記念国際シンポジウムを終えて

生産技術部門会議やISIJ90国際シンポジウム実行委員会、関係各位の多大な協力を得て、無事に90周年記念シンポジウムを終了させることができました。本国際シンポジウムの企画・実行に携わった関係者一同は、10年後の本会創立100周年に向けて気持ちを新たにしております。

改めて、前半の講演題目をまとめますと、

「社会に貢献する鉄鋼技術の現状と未来」

「リスクを最小にする製品開発の新戦略—新しい鉄鋼技術に関するケーススタディー—」

「急速に変化する世界における鉄鋼技術：協力及び競争」

「鉄鋼業における持続的成長」

「資源、環境、技術：鉄鋼業の持続可能な発展における競争要因」

「社会の持続的発展に向けた鉄鋼技術開発」

であります。鉄鋼商品技術、原料・鉄源技術、環境対策技術に視点を置いた具体的な取り組み事例とその技術背景、今後の世界の鉄鋼技術・鉄鋼業のあるべき姿、その発展の人類・社会への貢献、今後の技術開発の方向などを欧州、アジアの鉄鋼首脳の方々に講演していただくことができました。鉄鋼業の持続的な発展・成長のためには国際的な競争と協調の重要性を再認識することができたと思っております。

後半のパネルディスカッションでは、

(1) 鉄鋼業の中・長期的な技術の方向性

(2) それらの課題を実行する方法論、他社との協調、競争の使い分け

(3) 日本鉄鋼協会の役割と期待、
が議論されました。

(1) では、①資源の有効活用・省資源、環境負荷の低減、エネルギーと資源の循環の中での鉄鋼業の中心的な役割、②自動車業界との密接なパートナーシップの確立、③2050年頃を見据えての技術開発、④資源、エネルギー、環境問題の解決、⑤日本の輸出競争力維持と少子高齢化への対応、エネルギービジョンの具現化に向けての技術開発ブレークスルールの必要性、等

(2) では、①競争が進歩を生む、②長期的な課題への取り組みについては国際的な協調が必須、③ハイリスク・ハイコストの研究開発プロジェクトでの国際的協力、④時間とお金の節約のための競合会社同士での協力、⑤鉄鋼業界内外での協調の重要性、⑥環境問題では業界、地域を超えた協力関係(同業者間の連携、産学連携など)が重要になる、等

(3) では、①鉄の関連した分野以外の先生方へのアナウンスやアピール、②協会を中心としたネットワーク作りと国際的な活動、③アジア鉄鋼業界全体のまとめ役とリーダーシップの発揮、④限界的な研究・技術開発課題を取り扱い、活発な活動による独創的な技術提案をする学術団体としての再確認、等

に関する見解がパネラーから説明され、参加者に深い印象を与えました。時間の関係で会場からのご質問を受けられなかったことが心残りと言え心残りでありました。

ISIJ90国際シンポジウム実行委員会がイベント会社等に委託しないで企画から実行までを独力で推進しましたので、鉄鋼協会に貴重なノウハウを残すことができました。しかし、国際シンポジウム直前の準備等は大変厳しい状況になってしまったのも事実です。事務局要員や役割分担等の管理に少し課題を残しましたので、今後の活動に反映させていきたいと思っております。

今後とも会員各位の厳しくも温かいご指導、ご支援等をよろしくお願い申し上げます。

〈ISIJ90国際シンポジウム実行委員会〉

委員長：澤田靖士(新日鐵)

前委員長：大橋徹郎(交通安全環境研)

幹事：大橋 浩(新日鐵) 前幹事：西野 誠(新日鐵)

委員：渡辺正明(JFE)、福永 規(住金)、

宮本一史(神鋼)、山本 敦(日新)、

三輪 守(大同特殊)、覚道茂雄(中山)

事務局：細谷陽三、筒井康志、大中一徳、佐藤美世子